

いわた 羅針盤

ら しん ばん

平成28年
9月
定例会

No.58

2016.12.01発行

特集

地域防災を考える

磐田市自治会連合会会長 神谷 五郎 さん
磐田市消防団団長 寺田 博紀 さん
磐田市女性防災クラブ会長 木村 淑恵 さん

CONTENTS

- P2 特集 地域防災を考える
- P4 9月定例会議案審議
- P8 委員会審査
- P10 一般質問(13人)
- P17 委員会所管事務調査
- P18 トピックス
インフォメーションほか
- P20 審議結果 ほか

特集

地域防災を考える

12月第1日曜日は地域防災の日です。今回の特集は、磐田市自治会連合会会長、磐田市消防団団長、磐田市女性防災クラブ会長の3人に、それぞれの活動やお互いの連携、災害に強い地域づくりなどについてお話を伺いました。

(聞き手：市議会総務委員会 山田安邦委員長、高梨俊弘委員)



磐田市自治会連合会会長
神谷五郎さん

磐田市消防団団長
寺田博紀さん

磐田市女性防災クラブ会長
木村淑恵さん

—それぞれの組織の活動をご紹介ください。

神谷 防災対策で最も大事なことは日頃の備えであるため、自治会連合会では土砂災害訓練、総合防災訓練、地域防災訓練、津波避難訓練等を実施しています。そのほか防災講演会の開催や3月11日を「家庭防災の日」とするなど、防災意識を高める活動をしています。

寺田 現在の消防団の団員数は1210名ほどです。主な活動は火災、風水害などの有事への対応と訓練です。団員の多くが会社勤めであるため、企業や家族の協力をいただきながら活動しています。健全な育成の場でもあり、いざというときに地域の皆さんの力になれる人間を育てていきたいです。課題は団員の確保で、消防団の魅力、意義、目的をPRしていきたいです。

木村 女性防災クラブは、旧豊田町の自治会からの選出など約115名で活動しており、高齢者や子育てサロンなどでの防火や防災についての講演や、イベントでの防火意識啓発チラシの配布、クラブ員の知識や技術習得のための学習会を行っています。講演では、実際に被災地に行つて感じたことなどを具体的に話しています。講演を聞いて興味を持っていただき、フリー会員として入会される方もいます。

今後の「地域づくり協議会」で お互いの組織の連携促進を期待

——お互いの組織の連携についてはどのように考えますか。

神谷 防災訓練に参加していただき、消防団には専門的な立場から初期消火や応急救護、搬送方法などを効率的に指導していただきたいです。女性防災クラブには、避難所運営等について女性の視点からお話をしていただきたいですね。また、訓練の検討会や反省会にも参加していただき、訓練を進歩させたいです。

寺田 消防団は地域の人たちとの関わり、協力が防災の根底だと考えていま



す。自治会単位では定期的に報告会を行っており、コミュニケーションは今後も取り合っていきたいです。

木村 自治会や消防団で講演会や講習会を実施する場合は、ぜひ声を掛けていただきたいです。土砂災害訓練や水防演習にも参加していきたいです。

神谷 上の組織の連携が必要ですね。行政もぜひ検討してほしいです。

木村 自治会と消防団、女性防災クラブが情報を共有することで、消防団員の確保にもつながるのではないですか。

寺田 そうですね。自治会と連携し、団員の確保に努めていきたいです。

——「災害に強い地域づくり」のため

には、何が必要と考えますか。

神谷 防災は行政、いわゆる「公助」だけに頼るわけにはいきません。地域の住民と協力して災害に立ち向かう、「自助」「共助」が必要です。災害はいつ起こるかわかりませんから、家庭や地域で災害について話し合い、色々なことを想定する必要があります。また、今後、各地域の「地域づくり協議会」で、さまざまな団体の連携が広がっていくことを期待しています。

寺田 消防団の装備等ハード面は色々な部分で充実しており、行政のバックアップを感じます。「自助」「共助」の部分で地域の皆さん、女性防災クラブの皆さんと連携し、それぞれの組織の役割に応じて、地域の安全をみんなで築いていきたいです。

木村 長年クラブ員をやっている人た



ちもいますが、行政等から表彰等をしていただければ、さらにやる気も出てくるだろうと思います。ご検討いただければと思います。

神谷 女性防災クラブを知ってもらえるように、私たちももっと啓発していかなくてはいいけないですね。

寺田 連携できれば、それぞれの課題も克服できるかもしれませんね。

——お互いの組織の連携を、今後の「地域づくり協議会」の中で行い、今以上にそれぞれの活動が効果的になるように、行政がその仕掛けづくりを行う必要がありますね。

本日お話いただいたことを踏まえ、議会としても行政に働きかけていきたいと思えます。

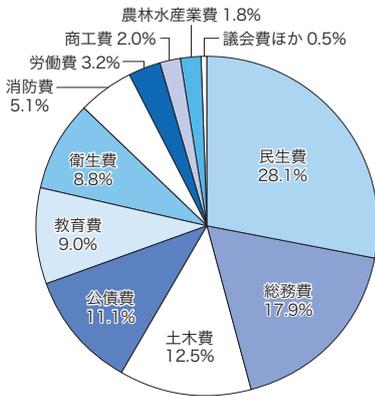
合併10周年の平成27年度各会計決算を審議

9月定例会では、一般会計をはじめとした平成27年度各会計決算のほか、一般議案14件、人事議案1件を審議しました。

なお、全ての議案の審議結果は最終ページに掲載しています。

歳出

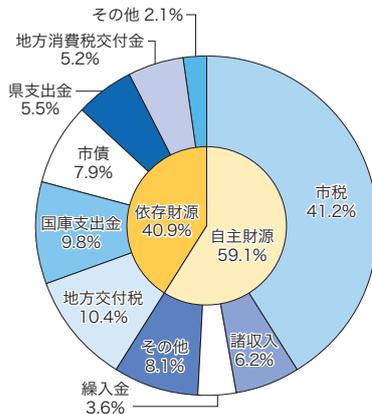
635億6738万9千円



歳出決算額は26年度に比べ、約35億4千万円の増額となりました。6つの優先施策に基づき、海岸防潮堤の建設などの防災対策、豊岡中央交流センター建設などの公共施設整備、福田こども園開園などの子どもたちへの支援のほか、合併10周年記念の式典等を実施しました。

歳入

659億3327万3千円



歳入決算額は、市税が法人市民税の税率引き下げにより減額となりましたが、市債が普通建設費の増加等に伴い増額となったことなどにより、26年度に比べ約32億7千万円の増となりました。財源内訳は自主財源が59・1%、依存財源が40・9%となりました。

【決算額内訳】

一般会計決算額は、歳入が659億3327万3千円、歳出が635億6738万9千円となり、差引額は23億6588万4千円、28年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は21億2655万5千円の黒字となりました。

(賛成…志・新・き・公 反対…共)

認
第1号

平成27年度一般会計歳入歳出決算

賛成多数で
認定

主な財務指標

●財政力指数 0.864

標準的な行政活動に必要な財源をどれだけ自力で用意できるかを表します。1.0を超えると財政基盤がしっかりしていると判断され、地方交付税が交付されません。

●実質収支比率 5.3%

自治体の財政運営の健全性を表します。実質収支が黒字ならば正数、赤字ならば負数で表されます。

●経常収支比率 85.5%

市税など毎年ほぼ変わらず収入される財源のうち、人件費、扶助費など毎年支出する経費にどれだけ充てているかを表します。80%の範囲内が望ましいとされています。

【27年度の主な事業】

安全・安心のための防災・減災対策

- ・防潮堤の建設
- ・体育施設のガラス飛散防止工事
- ・危険木除去に対する補助など



防潮堤工事（竜洋）

産業の活性化対策

- ・渚の交流館の建設
- ・中小企業の海外販路開拓、展示会等への出展支援など



渚の交流館

将来を担う子どもたちへの支援

- ・福田こども園の開園
- ・保育園の定員増
- ・放課後児童クラブの拡大など



福田こども園

地域福祉・支えあいの推進

- ・障害者福祉施設を整備する社会福祉法人等への支援
- ・認知症地域支援推進員等の養成など



認知症フォーラム

公共施設見直し

- ・豊岡中央交流センターの建設
- ・東大久保運動公園テニスコートの整備・拡張など



豊岡中央交流センター

合併10周年ほか

- ・記念式典や記念事業の実施
- ・自治会防犯灯のLED化
- ・磐田駅北口広場の整備など



合併10周年記念式典

一般会計決算に対する討論がありました

反対 財政調整基金を使い、**全安心の市政を推進すべき**

反対の理由を述べる。①幼稚園、保育園で正規職員の比率が5割を切るなど住民サービスが縮小した②国の言うままに公共施設等総合管理計画を策定し、学校統廃合等を推進している③技能労務職員の削減、退職者不補充は問題である④福田と豊岡の児童館を廃止し、条例自体も廃止した⑤放課後児童クラブの学年拡大は評価するが、小学3年生以下で待機児童がいるのは問題である⑥財政調整基金を使って、木造住宅耐震化事業の推進や子ども医療費の負担軽減を図るべきであった。

日本共産党磐田市議員
稲垣あや子 議員

賛成 成長発展の基盤づくりを**推進**

合併10周年の27年度は、市民・事業者・各種団体・行政が連携した取り組みが市内全域で行われ、市民の一体感醸成に大きな成果があった。また、限られた財源の中、計画された事業はほぼ予定通り実施できたことが確認でき、「将来を見据えた成長発展の基盤づくり」が着実に推進されている。

さらに起債残高の減少や財政調整基金の確保、公共施設整備基金の充実が進められた。こうした努力により、実質公債費比率等も改善し、財政健全化は着実に図られている。市民要望に的確に対応するとともに、健全な財政運営の継続を進める、バランスのとれた市政運営を期待する。

新磐田 松野正比呂 議員

認
第3号

平成27年度国民健康保険事業 特別会計歳入歳出決算

賛成多数で
認定

国民健康保険事業特別会計決算額は、歳入が200億5464万2千円、歳出が194億8477万2千円となり、差引額5億6987万円のうち4億円を国民健康保険給付等支払準備基金に積み立てました。

(賛成…志・新・き・公 反対…共)

討論がありました

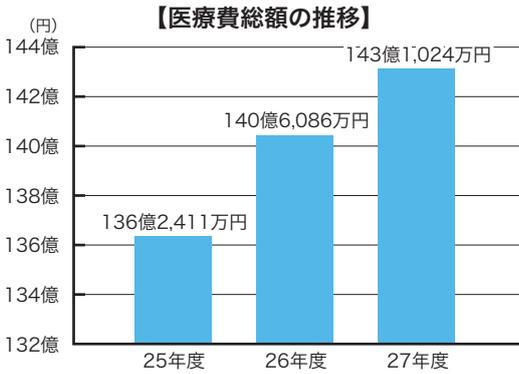
【被保険者の状況】 H28.3.31現在

世帯数 24,702世帯
(26年度より204世帯の減)

被保険者数 42,705人
(26年度より979人の減)

【1人あたりの医療費】

医療費 32万8,790円
(26年度より1万1,932円の増)



賛成 市民生活を考え税額据え置き

一般会計繰入金や基金取り崩しにより、加入者の負担軽減を実施し、27年度も保険税を据え置いた。また、ジェネリック医薬品の普及促進や健康づくりの働きかけ等による医療費削減の取り組みも評価できる。以上により、賛成する。

志政会 草地博昭 議員

反対 繰入金の増額等で負担軽減を

「国保税が高くて払えない」との声が多数あり、繰入金のさらなる増額や基金の取り崩しなどによる負担軽減、また、市独自の減免制度の拡充が求められている。運営努力はしているが、住民の声に答えられない。

日本共産党磐田市議団 高梨俊弘 議員

認
第5号

平成27年度介護保険事業 特別会計歳入歳出決算

賛成多数で
認定

介護保険事業特別会計決算額は、歳入が113億8870万2千円、歳出が109億1693万1千円となり、差引額4億7177万1千円のうち2億5498万3千円を介護給付費準備基金に積み立てました。

(賛成…志・新・き・公 反対…共)

討論がありました

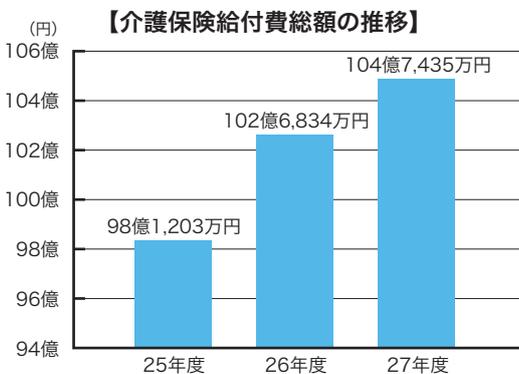
【第1号(65歳以上)被保険者の状況】 H28.3.31現在

世帯数 29,767世帯
(26年度より713世帯の増)

被保険者数 44,297人
(26年度より1,297人の増)

【認定者数の状況】 H28.3.31現在

認定者数 6,776人
(26年度より272人の増)



賛成 待機者減などを評価

認知症グループホームの新設等で特別養護老人ホームの待機者が減少した。また、地域包括支援センターの充実や介護予防事業の実施などで地域包括ケアシステムの推進が図れた。さらに、事業者への訪問指導等による給付費の適正化も評価する。

志政会 草地博昭 議員

反対 保険料値上げに基づく決算

保険料が基準額で、21・4%の値上げとなった。低所得者には重い負担である。国へ制度改善を求め、また、市独自の減免制度を創設すべきである。制度改正があっても、サービス低下のないよう強く求め、反対する。

日本共産党磐田市議団 根津康広 議員

27年度 各会計決算

一般会計

会計名	歳入	歳出
一般会計	659億3,327万3千円	635億6,738万9千円

特別会計

会計名	歳入	歳出
国民健康保険事業会計	200億5,464万2千円	194億8,477万2千円
後期高齢者医療事業会計	14億6,545万4千円	14億6,120万0千円
介護保険事業会計	113億8,870万2千円	109億1,693万1千円
農業集落排水事業会計	1億7,372万9千円	1億6,709万6千円
公共下水道事業会計	63億2,709万6千円	59億8,939万7千円
その他の特別会計※	8,386万3千円	8,257万7千円

※その他の特別会計には、駐車場事業、4財産区の各特別会計の合計額を記載しています。

企業会計

(税込み)

会計名	収入	支出	
水道事業会計	収益的収支	27億4,034万8千円	25億3,659万7千円
	資本的収支	6億3,189万7千円	14億4,783万6千円
病院事業会計	収益的収支	152億8,855万2千円	156億8,795万5千円
	資本的収支	12億9,889万0千円	21億1,507万8千円

収益的収支…収益的収入は、水道事業の水道料収入、病院事業の入院・外来の診療収入などをいいます。

収益的支出は、職員給与や材料費、光熱水費などをいいます。

資本的収支…主に施設を整備・拡充するために必要な経費と財源をいいます。



【幼稚園園舎】

建築面積	1,983.60㎡
延床面積	1,991.06㎡
A-1棟	5歳児3クラスほか
A-2棟	4歳児3クラスほか
B棟	職員室、屋内遊技場ほか
C棟	3歳児4クラスほか

【プール】

総面積	2,491.35㎡
大プール	縦25m×横18m
小プール	縦9m×横13m

磐田北幼稚園園舎と磐田北小学校プールの再築工事（建築）にかかる請負契約を、入札の結果、税込み7億2144万円で石川建設株式会社と締結します。

議案
第77号

磐田北幼稚園園舎と磐田北小学校プールの
再築工事請負契約の締結

全会一致で
可決

本会議での主な質疑

問 幼稚園教諭、保護者、近隣住民の声をどう反映したのか。

答 園長、校長、PTA代表等で組織する建設検討委員会で協議し、意見を設計に反映させた。また、近隣住民にも説明し、理解を得ている。

問 園舎のシックハウス対策は。
答 シックハウスが懸念される建材等は使用していない。また、法に基づく24時間換気設備の設置や十分換気ができる建物構造としている。

問 不審者対策は。
答 民間の防犯サービスを継続利用するほか、園への出入口を限定し、不審者を判断しやすくするように配慮している。また、北小学校と連携し、不審者情報の共有や講習を実施する。

委員会審査

議会では、委員会を設置し議案を詳細に審査しています。その内容の一部をお知らせします。

予算決算委員会

■委員長：小野泰弘 ■委員：議長を除く全議員
■副委員長：高梨俊弘

27年度一般会計歳入歳出決算

【歳入1款 市税】

問 法人市民税が減額となった理由は。

答 最も影響が大きかったのは1社、約5億円の減額である。その大半は税率引き下げの影響で、多少景気の影響もあった。

【歳入10款 地方交付税】

問 地方交付税の合併算定替えの影響は。

答 28年度から32年度まで段階的に、1割、3割、5割、7割、9割と減額され、一本算定となる。影響額は、当初30億円程度と想定していたが、かさ上げ措置があるため、現時点では20億円ほどと考えている。

【歳出2款 総務費】

問 地域づくり協議会設立の取り組み状況は。

答 27年度から地域に説明に入り、理解をいただいた中、17地区で設立された。しかし、何から手をつけていいかわからない地区もあり、今後は、

各地域に個別に入って、現在の活動の検証、簡素化等を進めていく。



地域づくり協議会発足式

問 防災資機材の備蓄状況は。

答 27年度末での総数は、アルファ化米20万5千食、アレルギー対応おかげ6千食、非常用電源装置設置工事18箇所整備済み、遺体処理に使用する資機材1900人分、遺体収容袋1300袋である。

【歳出3款 民生費】

問 高齢者等タクシー利用料金助成事業の利用率は。

答 例年、交付した枚数の半分程度の利用が続いている。1回につき2枚の使用で、24回利用することができるが、

必要な枚数を利用していただいていると理解している。

【歳出4款 衛生費】

問 竜洋最終処分場閉鎖後の跡地整備の計画は。

答 地元自治会での対策委員会で3回程協議している。また、群馬県草津町の最終処分場跡地で行っている水耕栽培や岐阜県岐阜市のメガソーラー施設等を視察している。

【歳出6款 農林水産業費】

問 耕作放棄地を解消した場合の交付金は。

答 解消の内容により変わってくる。基本は国が2分の1、県と市が4分の1ずつであるが、ビニールハウスや水耕栽培施設を整備した場合は国の2分の1の補助のみとなる。



耕作放棄地解消農地

民生教育委員会

■委員長：加藤文重 ■委員：芦川和美、太田佳孝、松野正比呂
■副委員長：草地博昭 ■委員：根津康広、岡貴、鈴木昭二

28年度磐田北幼稚園・磐田北小学校プール再築工事（建築）請負契約の締結

問 プールと園舎を別々に発注しない理由は。

答 一体で発注することで効率的な工事ができると考えた。

問 大プールで授業を行う場合の安全体制の確保は。

答 職員がしっかりと指導していくことが前提となる。構造上、水深は1メートルから1・2メートルが一般的で、安全は十分確保できる構造と判断している。物理的なものと人的な力の両方により安全が図られると考える。



【歳出8款 土木費】

問 危険木除去の状況は。

答 市の道路パトロールや市民からの通報が主である。所有者等には通知を出して除去をお願いしている。木が倒れそうで生命に関わる可能性があるものはなかった。車道や歩道に膨らんでいるものは自治会も含め、協力しながら対策を講じていく。

【歳出9款 消防費】

問 救急車の配備状況は。

答 救急件数は、毎年6千件弱で推移しており、今後、減少することは見込めない。救急車の適正配置の計画はあり、現在は本署、各分遣所に1台ずつ、非常用として1台本署に配備している。

【歳出10款 教育費】

問 運営が困難な学級に対する支援の状況は。

答 授業内容の理解が困難な子どもや教室を飛び出す子ども等を支援員がサポートすることで、心の安定や学力の安定にもつながっていることを強く感じている。

27年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算

問 資格証明書発行による効果は。

答 発行する際には、対象者に連絡し、納税相談に来ていただいている。一部納付があれば、資格証から短期証に変更しており、継続的な納付につなげる効果はある。

問 不納欠損の状況は。

答 通常は、執行停止をしてから3年で欠損となるが、その間に時効が来た場合は、時効が優先される。全て生活状況等を把握した上で、欠損している。

27年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算

問 27年度における介護報酬の引き下げの影響は。

答 市として詳細な実態把握はできていないが、国が審議会を設けて研究を進めているので、その結果を注視していきたい。

27年度水道事業会計決算

問 水道料金未納による停止処分と対応は。

答 水道料金の滞納が続くと一定の手続き後に給水停止処分となる。27年度は、863件あったが、アパートが大多数を占めている。停止による重大な事態に至ったという例はない。

27年度病院事業会計決算

問 地域医療機関との連携は。

答 紹介率、逆紹介率とも上昇している状況で、より地域の医療機関との緊密な関係が構築できている。

問 人間ドックの受け入れは。

答 27年度は当初12枠で設定していたが、重要性を考慮し、10月から16枠に増やした。なお、28年度は20枠としている。



磐田市立総合病院

建設産業委員会

■委員長：寺田辰蔵
■副委員長：芥川栄人

■委員：細谷修司、八木正弘、稲垣あや子
小野泰弘、川村孝好、増田暢之

磐田市計画磐田駅前地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正

問 ナイトクラブ等の営業で、本市に該当する店はあるか。

答 警察に確認したところ該当するものはない。

28年度公共下水道事業谷田川排水ポンプ場電気設備工事請負契約の締結

問 入札結果で4社のうち3社が辞退しているが説明を。

答 辞退した理由について、市として確認していないため把握していない。

問 予定価格は。



谷田川排水ポンプ場イメージ図

一 般 質 問 要 旨

一般質問とは？

個々の議員が、市政全般にわたり、市長をはじめとする執行機関に対して行う質問を一般質問といいます。

9月定例会では13人の議員が一般質問を行いましたので、主な内容をお知らせします。

一般質問の様子は、インターネットで録画配信しています。

[磐田市議会](#) [配信](#)

[検索](#)

クリック

子どもの貧困対策 公共・公務サービスのあり方

一 問
一 答

日本共産党磐田市議団 稲垣あや子 議員



子どもの貧困

問 本市の生活保護世帯数と保護率の推移を伺う。

答 20年度は190世帯、0.13%であったが、リーマンショックの影響もあり、22年度には365世帯、0.27%と大幅に増加した。23年度以降は微増が続き、27年度は448世帯、0.36%であった。

問 就学援助の受給者数と援助率の推移は。また必要な児童生徒が受給できているか。

答 20年度は小中学校合計で受給者数520人、援助率3.67%であったが、28年度は822人、5.90%と増加した。制度の周知は十分図っており、家庭の状況把握にも努めていることから、必要な援助は行われていると考える。

問 子どもの貧困状況を把握する実態調査を行う考えは。

答 児童扶養手当受給者を対象にアンケート調査を実施した。貧困率の把握は、先進自治体の調査等を参考に研究していきたい。

問 子どもの貧困対策条例を

制定すべきと考えるが見解は。

答 経済的支援、就労支援、学習支援など多方面から取り組んでいるため、現状では条例の制定は考えていない。

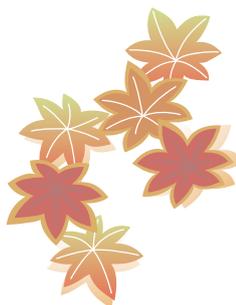
公共・公務サービス

問 本市の正規職員・非正規職員の推移を伺う。

答 28年4月1日現在、一般部門の正規職員は968人で47.4%、非正規職員は1075人で52.6%である。合併時と比較し、正規職員は297人減、非正規職員は374人増となっている。

問 労働者の賃金を適切に確保させるための公契約条例を策定すべきと考えるが見解は。

答 公契約法等の制定が先決であり、現時点では条例の制定は考えていない。



磐田市民文化会館の今後について 磐田駅北口広場／公立図書館の充実

問
答



日本共産党磐田市議団 高梨俊弘 議員

市民文化会館の今後

問 (仮称) 磐田市文化会館建設候補地が、アミューズ豊田南側敷地に決定した経緯を伺う。また、住民への説明が不十分と考えるが見解は。

答 建設検討委員会の答申を受けとめ、駐車場の確保、良好な地盤、既存施設を活用した文化ゾーンの創出等から決定した。移転を含めた検討の開始は公表しており、候補地決定は市政懇談会を通じて説明しているところである。

問 跡地利用の考え方を伺う。

答 商工会議所の要望も選択肢の一つとして、跡地を有効活用できるように考える。

磐田駅北口広場

問 広場の利用状況と課題は。

答 公共交通と一般車両が分離されたことで大きな事故もなく、車両の通行がスムーズになった。課題は、本市の玄関口として今後も適切な維持管理に努めていくことである。

問 市民要望の内容と対応は。

答 主な要望は浜松行きバス

停への屋根設置だが、市道

磐田山梨線の歩道幅員が大きく減少するため、考えていない。

公立図書館

問 (仮称) 子ども図書館設置に向けた基本構想を策定するための事業者選定にあたり、事業者へ示した基本方針は。

答 子育て支援機能と図書館機能をあわせ持つ図書館として、子ども読書活動の拠点施設とすること、保護者が必要な実用的書籍の配備や、子育て相談窓口の設置により、子ども自身と保護者のための複合型の図書館として整備することである。

問 基本構想へ住民意見を反映すべきと考えるが、見解は。

答 選定事業者とともに市民懇話会で意見を聞き、進めていきたい。



JR磐田駅北口広場

子ども・子育て支援の充実

括
問



新磐田 芦川和美 議員

問 第2期磐田市特定事業主行動計画における市職員のワークライフバランスの取り組み状況を伺う。

答 ノー残業デー76日以上の目標に対し、74・1%の部署が達成し、有給休暇年間12日以上取得の目標に対しては、平均9・3日という結果であった。数値目標の達成だけでなく、仕事の進め方の見直しや事業の整理整頓により、ワークライフバランスの向上に結びつけていきたい。

問 第2期幼稚園・保育園再編計画の検討状況、方向性は。

答 利用者ニーズに対応した受け入れ態勢の充実を主眼とし、民間活力も含め、既存施設の再編や事業拡大、新規事業による保育枠の拡大を進める。28年度内の公表に向け、現在策定を進めている。

問 休日・病児・病後児保育の現状を伺う。

答 認可保育園において休日保育は1園、病後児保育は8園で実施している。病児保育の実施園はない。

問 保育士確保のための取り

組み、成果、支援策を伺う。

答 「いわた保育のしごと応援ウェブサイト」の開設や広報いわたなどにより、幅広く保育士の募集を行っている。28年度、ウェブサイトには11人の登録があり、うち3人を採用し、チラシ等の募集では5人の採用に至った。なお、国や県で支援策を検討しているため、現時点で、市単独の新たな支援は考えていない。

問 公立、私立を分けることなく保育士の質の向上と育成を図るべきだが、考えは。

答 公立と私立合同の研修会などにより、保育の質の向上と人材の育成に努めている。引き続き、取り組みを推進していく必要がある。



高齢者福祉の諸課題

問
答



日本共産党磐田市議団 根津 康 広 議員

問 国は介護保険における要介護1・2以下の生活支援給付削減案や利用料の2割負担化案などに続き、保険料負担年齢の引き下げを検討する方針を示した。国に対し、負担増、保険給付を抑制させないよう求めるべきではないか。

答 市民にとって単なる負担増、保険給付の抑制にならないよう、必要な方に必要なサービスが提供され、でき得る限り住み慣れた地域で安心して暮らせる体制が構築できるように、国の動向を注視する。

問 デマンド型乗合タクシーについて、28年度にどのような検証がされ、方向性が示されたのか、具体的に何う。

答 利用者数の推移や目的地別利用状況等の分析のほか、路線バスや一般タクシー事業への影響などを調査した。6月にはお助け号の満足度、改善点等に関するアンケート調査を実施し、現在集計中である。公共交通全体のバランスを配慮し、利便性の向上に取り組みたい。運行内容の見直しは、アンケート結果も踏ま



デマンドタクシー「お助け号」

え、広域的な指定施設の追加や運行日の見直し、路線間の格差の解消を中心に進めたい。

問 公共施設でのトイレの洋式化の現状と促進の考えは。

答 庁舎など主な公共施設での設置率は約40%である。必要性は感じており、今後も改修に努める。また、施設を大規模改修する際には、必要に応じて設置に心がけたい。

問 加齢性の難聴の方が多くが、補聴器が高額なため着用率は低い。国に保険適用を求めることや自治体独自の助成制度を検討すべきでは。

答 適用範囲等十分な検討が必要のため、まずは現在の支援制度の周知を図るとともに、先進事例の情報収集に努める。

安全・安心・健康／ひとづくり・まちづくり 火の見やぐらの保存について

括
問



志政会 高田 正 人 議員

安全・安心・健康

問 幼児、小中学生への着衣水泳教育、水難救助教育の現状と考えを伺う。

答 全ての小学校で、発達段階に応じて複数学年で体験できるような計画的に実施しており、今後も継続したい。

問 消防団員の充足状況及び団員確保の課題と対策を伺う。

答 4月1日現在、団員数は1212人、うち学生は1人、女性は12人在籍し、充足率は88・7%である。人口減少に比例して消防団活動の担い手も減少するため、中学・高校生と交流活動を推進し、将来の団員確保につなげたい。

問 食育推進計画推進における課題と対策を伺う。

答 栄養バランスの取れた朝食をとっている割合が、高校生で6割と特に低い。28年度から朝食の必要性やバランスの取れた食事摂取の啓発事業を実施しているが、引き続き高校生を重点的に実施したい。

ひとづくり・まちづくり

問 すべての小中学生が認知症ポーターとなることについて考えを伺う。

答 27年度は城山中の3年生281人、28年度は神明中の3年生130人が養成講座を受講した。より多くの小中学生が受講できるようにしたい。

問 地域でお互いに助け合っておせっかいなまち・ひとづくりが大切と考えるが見解は。

答 ラジオ体操や交流センターを拠点とした地域住民の交流を通じて地域づくり・ひとづくりを進めていきたい。

火の見やぐらの保存

問 文化財として未永く保存すべきと考えるが見解を伺う。

答 本体を文化財として保存する考えはない。写真記録や半鐘等の一部保存は地元の意向を踏まえ検討したい。



火の見やぐら (加茂)

投票所／今ノ浦川・仿僧川治水と堤防の整備と資源としての利用

問
答



議員 太田佳孝 会 ぎずなの

投票所

問 共通投票所設置について市長の見解は。

答 選挙管理委員会の所掌であるが、公設ネットワークの整備や設置場所など、公平性や経費の問題について、選挙管理委員会と一緒に検討していきたい。

問 送迎や移動投票車を使った期日前投票について市長の見解は。

答 移動支援策として、社会福祉協議会の協力を得た福祉車両貸出制度などがあるが、今後もさまざまな事例の調査研究を引き続き選挙管理委員会と行っていきたい。

今ノ浦川・仿僧川

問 今ノ浦川と仿僧川合流地点のコンクリート護岸補修の今後の対応は。

答 事業主体である県は、地元の要望を受け、一部着手済みであり、今後も継続して対応することである。

問 草や笹の伐採、天端舗装の今後の対応は。

答 県は現地の状況を把握しており、堤防は重要な防災施設であるという認識の中で、河川流域全体の優先順位を考慮し対応していくとのことである。市も地元とともに早期実施を強く県に要望している。

問 観光資源としての河川堤防利用について見解は。

答 堤防は一部が整備され、ウォーキングやサイクリングにも利用されており、これ以上の整備は考えていない。



仿僧川堤防

問 レンタサイクル整備及びJRさわやかウォーキングとのタイアップは。

答 駅前のレンタサイクルは現時点で実施する予定はない。さわやかウォーキングは、本市を訪れるよい機会であるので、市全体の魅力を積極的にPRしていきたい。

学習指導要領 地震・津波・防災

問
答



議員 岡 志政会

教育の情報化

問 教育の情報化ビジョンの目標と取り組み状況、学校のICT環境整備計画は。

答 国の第2期教育振興基本計画で、ICT環境の整備基準等を明確にしており、市では、わかる楽しい授業の創造と児童生徒の情報活用能力の育成の実現に向け、電子黒板やデジタル教科書等を活用した教育を推進している。ICT環境の整備については、それぞれの計画を進めてきたが、機器の特性や国の動き等を注視しながら、28年度末までに取りまとめる予定の、教育情報化推進計画で細かく定めていきたい。「磐田の教育」に反映することも検討したい。



ICT授業の様子

原子力災害

問 中部電力と県・5市2町の安全協定の締結に対する思いと評価は。

答 周辺環境の安全が確保され、5市2町の意見がまとまるのが大切だと考えてきた。県・4市安全協定に準じた内容となり、当初の思いに沿ったものと考えている。

問 県・4市の安全協定との違いは何か。

答 立入調査の同行や措置の要求の通報等、若干の違いはあるが、県・4市協定に準じた内容になっている。

問 県・5市2町の今後の取り組みと連携は。

答 周辺地域の環境の安全確認のため、年内には浜岡原子力発電所周辺環境安全連絡会を組織し、連携した取り組みを継続していく予定である。

問 広域避難計画策定スケジュールと避難訓練予定時期は。

答 県と関係11市町が連携し、28年度末の公表に向けて策定作業を進めている。訓練は、県主催の訓練に関係市町とともに参加する予定である。

在宅医療と介護の連携 水害時の対応策

一 括
質 問

志政会 細谷修司 議員



在宅医療と介護

問 認知症の方の見守り支援対策の現状は。

答 安心地域支え合い体制づくり市民会議の参加団体等と協力して、日ごろから、見守り活動ができるよう体制整備を進めている。また、認知症の方が行方不明になった際、早期発見するための体制づくりも検討を進めていきたい。

問 認知症専門医との連携、訪問診療の医師の充実及び地域で支え合う仕組みづくりは。

答 本人や家族が必要な医療やサービスを受けられるよう、関係機関との連携を強化するとともに、認知症初期集中支援チームの体制構築を進めている。訪問診療は、在宅医療に特化したクリニックが開業



し、体制が整いつつある。また、医師会では、訪問診療を行う医師が中心となり、体制拡充への取り組みを始めている。今後も医師会と情報交換等を行い、体制づくりをする。今後にICTを利用した連携を進め、利用者を取り巻く専門職や関係機関との連携を進めていきたい。

水害時の対応

問 情報共有や避難勧告発令の考え方を伺う。

答 気象庁や県の防災情報、現場パトロール等で収集した情報を庁内災害情報共有システムにより共有している。避難勧告等は空振りを恐れず、早目の発令を基本とし、気象庁や県から発表される情報等により発令している。

問 土のうステーションの運用状況を伺う。

答 本庁舎及び4支所で運用を開始している。申請により1世帯あたり20枚を上限に土のう袋を支給し、申請者が作製して持ち帰り、災害に備えていただくものである。

「本」を活用した人づくり スポーツを活かしたまちづくり

一 括
質 問

志政会 草地博昭 議員



本を活用した人づくり

問 子どもたちが集まる場所への文庫の設置状況は。

答 全ての子育て支援センターに図書を設置し、子どもたちに読み聞かせを行っている。また、要望があれば、市立図書館から団体貸し出しを行っている。

問 学校図書館と市立図書館との連携は。

答 学校と図書館の連絡会における情報交換や、小学3年生の児童と保護者を対象とした読書運動を行っている。また、福田、竜洋、豊田の各地区では、図書館から学級文庫への図書の貸し出しを、豊岡地区では、移動図書館が学校を訪問し、図書の貸し出しなどを行っている。



移動図書館

問 静岡産業大学との連携は。

答 18年より市立図書館の貸し出し資料を大学図書館で返却できるようにした。28年度からは市立図書館資料の大学への団体貸し出しや大学図書館資料の返却を市立図書館でもできるようにしている。

スポーツのまちづくり

問 子どもがスポーツに触れる機会を増やすための方策は。

答 親子ふれあい体育教室、わくわくスポーツ教室等の幼児、児童向け体育教室の回数、定員の見直しにより、スポーツの機会の充実に努めている。

問 健康の切り口でスポーツに触れてもらう手段は。

答 健康的な生活を送ることのできる環境づくりのため、スポレク健康フェスティバルの内容検証や、初心者教室の実施状況の把握に努める。

問 2020年東京オリンピック、パラリンピックを見据えた方針は。

答 サーフイン、卓球、体操などを候補種目としてキャンブ地誘致を検討していきたい。

福祉・保健／防災 大池周辺整備について

一 括
質 問



公明党磐田 小野泰弘 議員

福祉・保健

問 認知症早期発見の仕組みづくりについて伺う。

答 認知症健診を住民健診とすることは、事後指導を十分に行えないことなどにより、現在は考えていない。まちの保健室や出前講座で認知症簡易テストを実施し、結果に基づいて健康相談を行うなどの取り組みを強化したい。

問 新生児聴覚検査の受診率向上への取り組みと、検査の公費助成について伺う。

答 新生児訪問時に、母子健康手帳等で確認し、ほぼ全員が受診していると認識している。公費助成については、国・県の動向を注視し、他市の状況も含め検討したい。

問 タブレットを活用した保健指導の取り組みは。

答 資料の効果的な活用と、ペーパーレス化を目的にタブレット導入を検討している。

防災

問 避難所としての観点からも、学校トイレの洋式化を促

進すべきでは。

答 今後も使用頻度が高いトイレの洋式化を優先的に進めたい。

問 耐震シェルター等の現物展示と、少ない費用負担で設置可能な補助方法の検討は。

答 自治会連合会主催の防災講演会で防災用品の展示を行っているが、今後は耐震シェルター等についても関係者と協議したい。耐震シェルター等の補助は、設置が進む制度となるよう現在検討中である。

大池周辺整備

問 大池に対する認識、周辺整備について伺う。

答 野鳥の重要な生息地であり、ウォーキングコースの整備や野鳥観察施設を設置し、環境学習の場として利用できるように整備を行いたい。



大池

スポーツを活用した元気なまちづくり

一 括
質 問



新磐田 芥川栄人 議員

問 リオオリンピックでメダルを獲得した二人の活躍に対し、記念碑等をつくる計画は。

答 市民に感動を与えてくれた二人の活躍をたたえ、後世に伝えることは大変意義のあるものと考えている。どのようなものがふさわしいか、今後検討していきたい。

問 新卓球場の整備計画、進捗状況、利用方法は。

答 かぶと塚公園テニスコート跡地の南側に建設予定であり、現在設計を進めている。利用方法は、卓球協会などと協議していく。



問 メダリストの名前を冠とした卓球大会や市民とふれあいのある継続的なイベントを開催する予定は。

答 両選手の名前の使用には規制があり、今後、関係団体と協議していきたい。市民とのふれあいイベントは、27年に卓球協会の主催により二人を招いて交流イベントを開催した。今後も継続して実施できるように調整していきたい。

問 東京オリンピックにおける卓球合宿誘致の考えは。

答 他の競技とともに誘致を検討していきたい。

問 市民スポーツが活発に行われ、年代ごとの健康増進につなげる仕掛けづくりをどのように考えているか伺う。

答 28年度は出前講座の内容を見直し、幼児、高齢者向けの講座の充実を図ってきた。今後も各世代のニーズに合った講座を開催し、市民の健康増進につなげていきたい。

問 多くの子どもたちが幼少期に各種スポーツを経験できる仕組みについて見解は。

答 幼児、児童向けの講座の充実を図っている。また、種目を増やし、子どもたちが幼少期にさまざまなスポーツ体験ができるよう検討する。

スポーツのまち磐田 / スポーツイベントとスポーツ振興 市役所と企業の連携

一 括
質 問



新磐田 加藤 文重 議員

スポーツのまち

問 今後のスポーツ部活の方向性、競技種目の拡大は。

答 各中学校における部活動の状況調査やアンケートにより小中学生のニーズを把握し、29年度以降の追加種目を検討していきたい。このモデル事業は全国から注目されており、成功例として県内、全国に広がっていくことが大きな責務の一つである。



磐田スポーツ部活

スポーツイベント・振興

問 サーフィンが東京オリンピックの追加種目に正式決定した。市はオリンピック正式種目化、本市豊浜海岸への競技会場誘致を目指す活動を行っているが、今後どのような活動を行っていくのか。

答 サーフィン競技の会場誘

致については、海辺のにぎわいづくりと活性化を目的に、サーフィン競技団体等と連携して進めてきたものであることから、今後も引き続き、全国大会の誘致やイベント実施などの活動を進めていきたい。

問 2019ラグビーワールドカップや2020東京オリンピック等ビッグイベントに対し、庁内組織の強化、再編等が必要と考えるが、見解は。

答 キャンプ地の誘致について、庁内検討会を立ち上げ、情報の共有化を図っている。今後は庁内・庁外の推進体制を整え、誘致活動に取り組んでいく。29年度には少し組織の改編も考えている。

市役所と企業

問 金融機関以外の民間企業との交流研修を進める考えは。

答 24年度より市内の企業、大学、行政が集う異業種交流研修を実施している。多くの業種の方々に参加いただいており、今後もこのような機会を活用して民間企業とも交流を図っていきたい。

安心安全 治水、河川管理

一 括
質 問



きずなの会 八木 正弘 議員

安心安全

問 道路パトロールと道路修繕の状況を伺う。

答 27年度は週3班体制、1回当たり3時間程度のパトロールを、年間144回実施した。修繕箇所は、簡易的な穴埋めなどを含め、約400件を対応した。

問 市道のセンターラインや外側線、速度数字等の白線が薄くなっているが、認識と計画的な管理の考えを伺う。

答 市道の白線は交通事故防止のために重要である。県公安委員会が所管する横断歩道や速度表示も含め、関係機関と連携し、重点地区を計画的に修繕していく。そのほか消え方の著しい箇所については、引き続き道路パトロールや自治会からの要望をもとに、順次対応していく。

治水、河川

問 倉西川、古川の台風時における、近年の氾濫状況と御厨排水機場の稼働状況を伺う。

答 台風、大雨による河川の

氾濫実績はない。また、自然流下により排水できているため、御厨排水機場の稼働実績もない。

問 倉西川、古川における管理の住み分けは。

答 2級河川であり県の管理だが、堤防等で市が道路として認定占用している箇所は市で管理している。また、民地に隣接した箇所の簡易的除草は、一部の地権者や耕作者にご協力いただいている。

問 地権者、耕作者が高齢化し、草刈等の管理ができなくなっているが、対応は。

答 県に事情を説明した上で、県のリバーフレンドシップ事業や市のまち美化パートナー制度の協働施策も取り入れながら、円満な解決に向けた要望をしていきたい。



倉西川

行政視察報告

議会運営委員会や常任委員会では、所管する事務に関する審査や調査のため、他の自治体の先進的な取り組み等について行政視察を行っています。

今回は、議会運営委員会と民生教育委員会の行政視察の内容をお知らせします。

議会運営委員会

7月26日～27日

(調査項目) 議会改革・活性化の取り組み

栃木県栃木市

●議会基本条例の検証

各条文がその目的に合致しているかなどについて、活発な意見交換を行い、検証結果報告書を策定している。細部にわたって検証を行い、会派への持ち帰りなども経ながら総意としての評価を導き出した点は注目すべきと考える。

●市民と議員とのフリートーク

議会報告会に参加者を10人程度のグループに分け、フリーテーマで意見交換を行い、最後にグループ毎にその内容を発表している。当市議会でも導入することで、発言者の偏り解消や発言の活発化につながると思われる。



東京都町田市

●議会傍聴啓発用パンフレット・ポスターの作成

町内会・自治会に対して、閲覧板を利用した傍聴啓発用パンフレットを配布している。また、市議会開催ポスターを市民バスや市内の民間路線バスに掲出している。約170台あるため、相当なアピール力があるものと考えられる。

●議会へのタブレット端末導入

ペーパーレス化や職員の労務費の削減等を目的に、28年6月にタブレットを配付、9月議会で試行、12月議会で本稼働の方向で決定した。タブレット操作も体験し、その利便性や同時性、迅速性を実感した。導入することで市当局や議会事務局の最終的な事務量の削減につながるものと感じられた。

民生教育委員会

8月1日～3日

(調査項目) 子ども・子育て支援

茨城県常陸太田市

●子育て支援施設

「子育て上手 常陸太田」をスローガンに掲げ、新婚家庭の家賃助成(月2万円)や不妊治療費助成、妊産婦医療費助成等、多岐にわたる子育て支援策を行っている。本市でも有効な施策は取り入れたい。

千葉県我孫子市

●放課後子ども教室

「全ての児童」を対象にして、学童保育(放課後児童クラブ)と放課後子ども教室(あびっ子クラブ)の一体的な運営をスタートさせた。あびっ子クラブの特徴は、年間290日、午後5時まで開いている



こと、いつでも好きな時に遊べることなどで、登録率が非常に高い。本市も放課後子ども教室の需要がどの程度あるのか、市民の声を聴く必要があるのではないか。

富山県富山市

●子ども図書館

子ども図書館と子育て支援センターをあわせた「とやまこどもプラザ」を整備した。特徴は、①こども図書館と支援センターに一体感を持たせたこと②トイレ、通路は相互の利用者が使いやすいように配置したこと等で、子育て世代にはより効果があることが理解できた。本市で新設されるこども図書館に子育て相談機能をどのように併設させるか、また図書館の機能にどうやって子育て世代の声を反映させるか等、十分な検討が必要であると感じた。

9/2 「いわた羅針盤」提案者に 記念品を贈呈

新しい議会だよりの名称「いわた羅針盤」の提案者である高橋靖行さんに対し、議長から記念品を贈呈しました。高橋さんからは「『いわた羅針盤』で、さらに議会が身近になってくれれば」との言葉がありました。



10/17 建設産業委員会が 中小企業等と意見交換

建設産業委員会は所管事務調査として、市内中小企業等事業者と懇談会を行いました。当日は市内経済の活性化に向けた委員会の取り組みを報告するとともに、中小企業等を取り巻く現状と課題について、活発に意見交換しました。



10/18 公立病院の課題を協議 国への要望事項を決定

磐田市議会議長が会長を務める全国自治体病院経営都市議会協議会が、磐田市立総合病院で開催されました。全国12市議会の議長等が公立病院の課題を協議するとともに、医師不足対策など、国への要望事項を決定しました。



10/21 本市議会の議会改革の取り組み について視察を受けました

北海道芦別市議会運営委員会が、本市議会の議会改革の取り組みについて視察に訪れました。視察では、議会基本条例の運用や議会報告会の実施について説明を行うとともに、質疑応答や意見交換を行いました。



10/29 議会報告会を開催しました

10月29日に、議会報告会を市内3会場で開催しました。ご参加いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

報告会では、27年度決算や政務活動費、各委員会の主要課題等について議会から報告を行いました。参加者の皆さまとの意見交換では、公共施設の見直しや子育て支援施策などについてご意見をいただきました。

なお、詳細については、次号でお知らせする予定です。



聴覚障がいをお持ちの方や耳の聞こえにくい方の傍聴ため、以下の取り組みをしています

市議会では、聴覚障がいをお持ちの方や耳の聞こえにくい方のため、

- ①手話通訳者の派遣
- ②要約筆記者の派遣
- ③整音器の貸し出し（先着2台）を行っています。

ご希望の方は議会事務局まで事前にご連絡ください。



手話通訳者の派遣



要約筆記者の派遣



整音器の貸し出し

声の議会だより（CD）をご利用ください

視覚障がいのある方のため、声による議会だよりをお届けしています。ご希望の方は、議会事務局までご連絡ください。



議会フェイスブックで情報をお届けします

市議会をより身近に感じていただくため、フェイスブックページで議会情報をお届けしています。ぜひ、アクセスしてください。



<http://www.facebook.com/iwata.gikai>

政務活動費の適正な使用・透明性の確保に努めています

各会派は、議員の調査研究その他の活動に役立てるための必要な経費の一部として、政務活動費の交付を受けることができます。

政務活動費の適正な使用及び透明性の確保のため、各会派は経理責任者を設置し、年度終了時に議長あてに収支報告書・現金出納簿・領収書等を提出しています。また、議会事務局においても、すべての提出書類の内容を確認しています。

なお、会派別の収入支出状況等を議会だより及び市ホームページで公開しており、領収書の写し等は議会事務局にて閲覧できます。

議員定数を検討しました

10月4日に開催された会派代表者会議において、来年4月に予定されている磐田市議会議員選挙における議員定数について検討を行いました。

各会派からは、「現状のままが良い」と「削減すべき」との両方の意見が出ましたが、現状の定数26名を維持する方針を決定しました。

